



# 【あおぞら】

Vol.2023.10 月



篠崎内科クリニック

## 次回休診日：11月2日(木)

※10月29(日)休日当番医の代休です  
お間違えの無いようお願い致します

<休診日のお知らせ>：その他現在決まっている休診日の日程です。  
2023年1月31日(火) (1月29日 当番医の代休)

<今月のトピックス>：朝晩がだいぶ冷え込むようになりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

最初のトピックスですが、今月より新型コロナ用治療薬に対し自己負担が発生するようになりました。実は コロナ治療薬は5日間で約10万円かかるのはご存じでしたでしょうか？(右図)最後に承認されたゾコーバでも5万円かかりますが、治療効果としては一般的にパキロビッド>ラゲブリオ>ゾコーバとなっております。ただし、パキロビッドとゾコーバには併用ができない薬が多く、服用中の薬をすべて把握できないと処方難しいところが難点です。

9月末までは全額公費で負担されている		
薬剤名	薬価	1治療あたりの費用
ゾコーバ (塩野義製薬)	約7000円 (1錠)	約5万2000円
パキロビッドバック (米ファイザー)	約1万9800円 (1シート)	約9万9000円
ラゲブリオ (米メルク)	約2300円 (1カプセル)	約9万4000円

### 新型コロナ治療薬の自己負担額

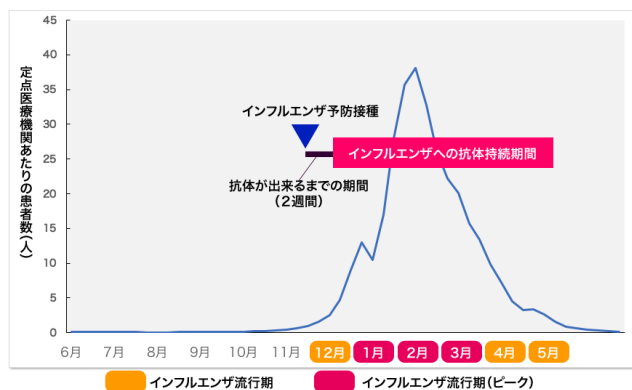
医療費の負担割合	これまで	10月1日～2024年3月末
1割負担		3000円
2割負担	無料	6000円
3割負担		9000円

来春支援廃止も

そして今回、右下図のように一部負担が発生するように変更になりました。負担額はどの薬剤を選択しても同じです。来年4月からは支援が無くなる可能性もあります。来年からはコロナワクチンも支援が無くなる予定ですので、益々自己負担が増えてしまいます。だいぶ身近な感染症になったとはいえ、インフルエンザと違い後遺症で苦しむ方も多いですので、極力感染しないようこれからも気を付けていきましょう。

当院では今月よりインフルエンザワクチンの予約・接種を開始いたしました。ただし、ワクチンの効果は「接種後3カ月で有効予防水準が78.8%、5カ月では50.8%と減少する」となっております。ですので、10月に接種すると早く

効果が減弱してしまいます。例年1～3月がインフルエンザの流行期であることを考慮すると11月末から12月中旬までに接種することが推奨されます。もちろん今年も現在でも局地的にインフルエンザが流行しているためハイリスクの方や受験生など早めに接種するメリットもありますが、その場合は1月ごろに再度接種することをお勧めいたします。



**<Ns 通信:季節外れのインフルエンザが流行! ?>**冬になると流行する『インフルエンザ』、今年は異例にも9月にインフルエンザが増加し、さらに新型コロナとの流行も相まって、非常に多くの方が感染する事態となっています。またインフルエンザと新型コロナの同時流行も懸念されています。今回はインフルエンザの特徴について再確認していきたいと思えます。インフルエンザの主な症状は発熱(通常38度以上の高熱)、頭痛、筋肉痛・関節痛、咳・痰、鼻水、倦怠感、咽頭痛、嘔吐・下痢(子供に多い傾向)があります。また、インフルエンザで多くなる症状として、**急激な発熱と咳・鼻づまり**です。新型コロナウイルスとの大きな違いは潜伏期間で、インフルエンザは2～3日で急激に発症すると言われています(新型コロナウイルスは1～14日間。多くは5日程度で発症)。今夏は季節外れのインフルエンザが流行していますが、主な要因としてインフルエンザの大規模な流行も少ない状況が続いていました。つまり、インフルエンザへの免疫獲得をする機会が少ない状況が続き、インフルエンザに対する免疫力が低下している状態の方が多かったためと言われています。免疫力が低下している状態では、重症化リスクも高まる恐れがあります。インフルエンザにかからないための予防として、①こまめな手洗い・うがい、②マスク着用、③定期的な換気、④バランスの良い食事・十分な睡眠、⑤インフルエンザワクチンの接種です。ワクチン接種は感染や発症を完全に防ぐことはできませんが、**重症化リスクの低減に効果がある**とされています。当院でもインフルエンザワクチンの予約・接種を開始しています。気になる方はスタッフにお声掛けください。

**<今月の動画>**：今回は当院掲示板の「睡眠時無呼吸症候群」解説と、「骨粗鬆症はなぜ骨折するまで放置されるのか？」の2本を投稿いたしました。いずれも健康寿命に関わる重要な疾患ですのでぜひご覧ください！

「睡眠時無呼吸症候群」  
の か？」



「骨粗鬆症はなぜ骨折するまで放置され

